

---

# お願い、アナタから

たま

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

お願い、アナタから

### 【Nコード】

N9812P

### 【作者名】

たま

### 【あらすじ】

ゆるりと 解いたものは  
貴女のココロか、  
はたまた己のココロか、  
淡いが確かな存在を、、  
アナタの唇で感じましょう、

――お願いよ、と

P  
l  
e  
a  
s  
e  
  
k  
i  
s  
s  
  
m  
e  
,  
,  
.

【？・誘惑の、、】

【誘惑の、、】

ゆるりと 解いた その先に

その女は言った

「あら、貴方にそんな勇氣があるようには見えないけれど？」  
チャカチャカと甲高い鈴のような声色は  
人を馬鹿にするには十二分だった、、

笑う女をよそに考える、

ここで挑発に乗って襲うもんならあの悪魔の思いつぼだ、  
なら逆に誘ってみるのも悪くない、  
俺も男なのだ、と改めて感じる

「そうかい、女一人黙らせられねー俺は男失格かい？」

沈黙が2つの影をより一層深いものへと招いている、

「へえ、じゃあアタシを黙らせてちょうだいな」

女が含み笑いをしながら紡いだこの言葉に  
俺は口角を少し上げてみせる、

「いや、俺がアンタを黙らせるにはちつとばかり根気がいるな、  
なんなら情けない俺をオマエさんが叩き直してくれるというのは、、

どうだい？」

のった

と一言、女は俺の上にまたがり顔を近づけこう言った、

「女に頭こぶしを垂れるなんてあなたとんだ変態ね、」

でも気に入った、

最後に一言残して

あとは俺の口に女のソレを重ねて軽いリップ音を奏でて見せた、、

接吻の一つを相手からして貰うには自分を下げて誘うのが一番だ、、特に気の強い女ならなおさらだ、

俺の誘惑は

見下される快樂におぼれるだけではない相手を俺に落とさせる道標

表の裏は表

誘惑はされたら逆手を取り

誘惑をする、、

恋の条件などそれだけで十分だ、、

ゆるりと

ココロを 解いた

その先に

貴女の笑顔が見れたなら

何度でも俺は

ココロを弄ぶだろう、、

【誘惑の、、end】

【?・誘惑の、、】（後書き）

誘惑の、、  
を書きおえました（\*^^）

何力月もネット活動を放置していたため  
もともとないに等しい文才力も  
酷いものとなつたいます、、  
悪しからず、、w

今回の小説では純粹な恋愛と  
少し歪んでる恋愛を描いていこうと思います  
自分の感情うんぬんではないものを書いてみよう  
と突発的なもので  
どこまで続くかは分かりません!!!

それでもいいぜ!  
という優しい読者様がいたら嬉しいです  
因みに 誘惑の、、  
に繋がる言葉が分かった方はこっそり教えてくださると嬉しいです  
一応ヒントとして  
カタカナで2文字です（^^）/  
では、

次の作品までしばしのお別れを、、  
See you again , , , .

【?・もう一度】

初めてあの男と唇を重ねてから  
どれだけの時が経つのだろうか

ふと 思ってみたが  
ばかばかしくなって あたしは 思考を止めた

あの男は あたしに何を思い  
あんなことを言ったのだろうか、

強がりな 強情なあたしを  
言葉巧みに操って見せた

なんて奴だ、 と思ったが

それを考え出したのついさっきの事、  
今思い返し、腹を立てても  
後の祭りである、

「でも、」

言いかけて呑みこんだ言葉は  
あたしの本心、

認めたくない  
しかし

認めざるおえない

何なのだろう

この感情は、、

もう一度だけ あの唇に触れたいと、  
なぜか今宵は涙があふれてくる

もう自分のところに来るのかさえ分からぬ男を想い  
見世の片隅で  
頬をしめらせた、、

ばかばかしいにも程があるではないか

あたしは

この遊郭の遊女、  
あんな男ごときで泣くなんて  
おかしいではないか

かすれた笑い声が出てくる

あの男は他の男とは違った、  
あの夜は 何もなかった  
ただ唇を重ねただけ  
あたしが跨り接吻をした  
あたしが挑発したつもりが  
挑発に乗ってしまった、、

あんな何気ないことなど  
普段やっているではないか、

でもこの気持ち  
は溢れるばかりで、

今宵も あたしは  
他の男に名を呼ばれ  
「愛している」と  
嘘の言の葉を発する、

あの男に言えたら、なんて

もう一度  
逢えたなら、  
今度は

貴方から、

あたしは  
袖を濡らし  
他の男に愛を紡ぎ  
あなたを待っている、

もう一度、  
もう一度

あの接吻が忘れられないの、

恋の条件など  
それだけで十分  
逢いたくても逢えないの、  
それが寂しくて己の唇に手を添えて

思い返してみるの、

お願い、もう一度、ゝゝと

【?・もう一度 END】

【?・もう一度】（後書き）

お久しぶりです、

遊女のお話という設定にしてしまいましたw

遊郭では愛情など御法度、、

その中で 一度だけ唇を合わせただけなのに  
ひかれてしまったという苦悩、

他の男性との接待中にも頭に浮かぶヒト、

きつと辛いものだろうと思い

描かせていただきました

少し柔らかい表現で

伝わっていたら幸いです、

少しのお付き合い

よろしくお願いいたします、

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9812p/>

---

お願い、アナタから

2011年10月6日08時15分発行